

## 完全否定の陳述副詞の生起条件

言語学・応用言語学専門分野

1LT10160S

吉田 雄大

2010（平成 22）年入学

2014（平成 26）年 1 月提出

## 要 旨

本論文は、否定と呼応してその程度を強調する役割を持つ、程度の副詞「全く、さっぱり、ちっとも、いっさい、まるきり、すこしも、全然」の生起条件を分析するものである。

従来の研究において、この種の副詞の生起には、(i) 動作主に関する制限（動作主が特定の個人及び個体である文には生起できない）、(ii) 動作の対象に関する制限（動作の対象が一度きりの特定の個人及び個体である文には生起できない）、があることが指摘されてきたが、本論文では、述語の性質もその生起可能性に関与するということを示した。

また、本論文では、様々なタイプの文での陳述副詞の生起位置についても考察した。完全否定の陳述副詞は吉村（1999）における否定極性項目にあたり、関係付けられる否定辞により c-command される位置に現れなくてはならないと言われている。しかし、従属節を含む文の場合は、関連付けられない VP 内には生起することができないということを示した。

## 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 1. はじめに.....            | 1  |
| 2. 構成素の意味的制限.....       | 4  |
| 2.1. 動作主に関する制限.....     | 4  |
| 2.2. 動作の対象に関する制限.....   | 5  |
| 2.3. 述語に関する制限.....      | 5  |
| 2.4. 程度の副詞「少し」との関連..... | 10 |
| 3. 完全否定の陳述副詞の生起位置.....  | 15 |
| 3.1. 単文内での生起位置.....     | 15 |
| 3.1.1. 観察.....          | 15 |
| 3.1.2. 考察.....          | 22 |
| 3.2. 従属節を含む文での生起位置..... | 25 |
| 3.2.1. 観察 1.....        | 25 |
| 3.2.2. 観察 2.....        | 29 |
| 3.2.3. 観察 1 の考察.....    | 33 |
| 3.2.4. 観察 2 の考察.....    | 34 |
| 4. 個々の完全否定の陳述副詞の用法..... | 37 |
| 4.1. さっぱり.....          | 37 |
| 4.2. 少しも・ちっとも.....      | 37 |
| 4.3. まるで、まるきり、一切.....   | 37 |
| 4.4. 全く、全然.....         | 37 |
| 5. 結論.....              | 38 |
| 参考文献.....               | 39 |
| 謝辞.....                 | 40 |

## 1. はじめに

「全く」「さっぱり」等の副詞は、否定文で現れ、〈程度〉〈量〉〈頻度〉の側面を全面否定する働きをする。(1a)は、日本人らしさの程度を「ちっとも」で全面否定している (cf. 工藤 1993)。

- (1) a. 優子は **ちっとも** 日本人らしくない。 (程度の全面否定)
- b. 太郎はその本を **一切** 読まなかった。 (量の全面否定)
- c. 今年の夏は **全く** 雨が降らない。 (頻度の全面否定)

本論ではこのような副詞類を、否定を強調する役割を担うことから、完全否定の陳述副詞と呼ぶことにする。

- (2) 完全否定の陳述副詞：「100%ない」ということを表す副詞  
    全く、さっぱり、ちっとも、いっさい、まるきり、すこしも、全然

(2)の副詞類は、通常肯定文では使われることがない<sup>1</sup>。

- (3) a. 今年の夏は **全く** 雨が降らない。
- b. \*今年の夏は **全く** 雨が降った。
- (4) a. 後から来た陽子は何の話か **さっぱり** わからなかった。
- b. \*後から来た陽子は何の話か **さっぱり** わかった。

<sup>1</sup> 完全否定の陳述副詞の中には、肯定文でも「ダメだ」や「違う」といった否定的な表現が述語の場合に共起可能なものがある。

- (i) a. 学食の料理は、値段はいいが 味は **全然** ダメだ。
- b. 学食の料理は、値段はいいが 味は **まるきり** ダメだ。
- c. 学食の料理は、値段はいいが 味は **まるで** ダメだ。
- d. ?学食の料理は、値段はいいが 味は **全く** ダメだ。
- e. ??学食の料理は、値段はいいが 味は **さっぱり** ダメだ。
- f. \*学食の料理は、値段はいいが 味は **一切** ダメだ。
- g. \*学食の料理は、値段はいいが 味は **少しも** ダメだ。
- h. \*学食の料理は、値段はいいが 味は **ちっとも** ダメだ。
- (ii) a. この商品は、私が注文したものと **全然** 違うじゃないか。
- b. この商品は、私が注文したものと **まるきり** 違うじゃないか。
- c. この商品は、私が注文したものと **まるで** 違うじゃないか。
- d. この商品は、私が注文したものと **全く** 違うじゃないか。
- e. ??この商品は、私が注文したものと **さっぱり** 違うじゃないか。
- f. \*この商品は、私が注文したものと **一切** 違うじゃないか。
- g. \*この商品は、私が注文したものと **少しも** 違うじゃないか。
- h. \*この商品は、私が注文したものと **ちっとも** 違うじゃないか。

- (5) a. 今の反論は **ちっとも** 論理的ではない。  
b. \*今の反論は **ちっとも** 論理的である。

(2)の副詞の中には、「全く」や「全然」のように、肯定文で使われるものもあるが、本論では肯定を強調している用法は考察の対象としない。

- (6) a. この発見は **全く** 新しい。  
b. 先生から何を言われようが **全く** 平気だ。  
(7) a. 先輩はやっぱり **全然** 素敵だなあ。  
b. 怖がっていたけど一度やってみたら **全然** 大丈夫だった。

完全否定の陳述副詞は、否定文であれば常に生起可能なわけではない。否定文でも、動作主、動作の対象、述語を変えると、容認できない文が生じる。

- (8) a. 友達がパーティーに **ちっとも** 来ない。  
b. \*太郎がパーティーに **ちっとも** 来ない。  
(9) a. 花子は 去年の大学入試に **一切** 合格しなかった。  
b. \*花子は 九大の二次試験に **一切** 合格しなかった。  
(10) a. 優子は **ちっとも** 日本人らしくない。  
b. \*優子は **ちっとも** 日本人ではない。  
(11) a. 太郎は その本を **一切** 読まなかった。  
b. \*太郎は その本を **一切** 読みきらなかった。

また、否定副詞の位置を変えていると、容認できない文が生じる。

- (12) a. 夏休みで 学校に 生徒が **さっぱり** 居ない。  
b. \***さっぱり** 夏休みで学校に生徒が居ない。  
(13) a. 透はジョンがパーティーに 来たことを **全然** 知らない。  
b. \*透はジョンがパーティーに **全然** 来たことを 知らない。

本論文では完全否定の陳述副詞がどのような生起条件を持っているかを考察していく。第2章では、構成素から生じる意味的制限について論じる。続く第3章では、文の構造から生じる制限について論じる。その結果として、以下のことを主張する。

- (14) 完全否定の陳述副詞の生起条件  
i. 完全否定の陳述副詞は、意味的に、一回性で、頻度を論じる余地の無い文に

は完全否定の陳述副詞は生起できない。

- ii. 完全否定の陳述副詞は、構造上、否定詞節内に生起し、他の動詞節内に生起してはならない。

## 2. 構成素の意味的制限

- (15) 生起可能な文の条件：頻度を論じる余地の無い文には生起できない
- 動作主の制限（動作主が特定の個人及び個体である文には生起できない）
  - 動作の対象の制限（動作の対象が一度きりの特定の個人及び個体である文には生起できない）
  - 述語の制限（瞬間動詞及び、完了を表す複合動詞+継続動詞とは共起することができない）

工藤（1993）では本稿における完全否定の陳述副詞について「「すこしも、ちっとも、これっぽっちも、いささかも、みじんも」は、形容詞述語と共起して<程度>を表す全面否定する場合と、動詞述語と共起して<量><頻度>の側面を全面否定する場合がある」とあるように完全否定の陳述副詞は<程度><量><頻度>について全面否定するものであると論じている。完全否定の陳述副詞は、それが生起する文の頻度を100%ないものと否定する働きをする。それゆえ、一回性で、頻度を論じる余地の無い文には完全否定の陳述副詞は生起できない。

完全否定の陳述副詞は、否定文で用いても、動作主、動作の対象、述語の性質によって生起できなくなる。まず動作主の性質による生起可能性を見ていく。

杉村(2000)は「「ゼンゼン」が程度量を強調することは、これが程度量の関与する事態にしか使えないことから証明される」とあり動作主は特定の個体であってはならないことが示されている。例えば(16)において、aでは動作主「(先数年の)阪神」であり複数性を有するがbでは動作主は「今年の阪神」であり特定の個体で複数性がない。

- (16) a. 今の調子では、阪神はあと数年ゼンゼン優勝しないだろう。(杉村 1999 11a)  
b. \*今の調子では、今年の阪神はゼンゼン優勝しないだろう。(杉村 1999 11b)

上記の先行研究では否定の副詞が量や程度に関与していなければならないという制限が示唆されているが具体的な動作主、動作の対象の制限は言及されておらず、述語に関する制限は挙げられていない。本章では動作主、動作の対象及び述語の制限に関して分析していく。

### 2.1. 動作主に関する制限

動作主が複数性を表わす名詞句の場合[aの文]、完全否定の陳述副詞は生起可能であるが、動作主が特定の個人や個体を表わす名詞句の場合[bの文]、完全否定の陳述副詞は生起できない。

- (17) a. パーティーに 友達が **ちっとも** 来ない。  
b. \*パーティーに 太郎が **ちっとも** 来ない。
- (18) a. 昨日から 生徒の姿が **少しも** ない。  
b. \*昨日から 次郎の姿が **少しも** ない。
- (19) a. 出兵した兵士は **全然** 生き残っていない。  
b. \*出兵した母方の祖父は **全然** 生き残っていない。
- (20) a. 夏休みで学校に 生徒が **さっぱり** 居ない。  
b. \*夏休みで学校に 藤木が **さっぱり** 居ない。

### (21) 動作主に関する制限

完全否定の陳述副詞は、動作主が特定の個人及び個体である文には生起できない。

### 2.2. 動作の対象に関する制限

完全否定の陳述副詞が生起できるかどうかは、動作の対象の複数性にも関係している。

動作の対象が複数性を有する名詞句の場合[aの文]、完全否定の陳述副詞は生起可能であるが、動作の対象が一度きりの特定の個人及び個体である表わす名詞句の場合[bの文]、完全否定の陳述副詞は生起できない。

- (22) a. 花子は 去年の大学入試に **一切** 合格しなかった。  
b. \*花子は 九大の二次試験に **一切** 合格しなかった。
- (23) a. 日本は 環境大国に **ちっとも** なれなかった。  
b. \*日本は 第二次大戦の戦勝国に **ちっとも** なれなかった。
- (24) a. 田中は 成績上位を **少しも** 取れなかった。  
b. \*田中は 東大主席を **少しも** 取れなかった。
- (25) a. 記憶喪失になった弟は 僕のことを **まるで** 覚えてない。  
b. \*記憶喪失になった弟は 僕の名前を **まるで** 覚えてない。

### (26) 動作の対象に関する制限

完全否定の陳述副詞は、動作の対象が一度きりの特定の個人及び個体である文には生起できない。

### 2.3. 述語に関する制限

述語の性質によっても、完全否定の陳述副詞が生起できるかどうかが変わる。(27a)は「日本人らしい」には程度を論じる余地があるが、(27b)の「日本人だ」は断定的で

あり程度を論じる余地はない。このように完全否定の陳述副詞は程度を表せない文では共起不可能である。

- (27) a. 優子は **ちっとも** 日本人らしくない。  
b. \*優子は **ちっとも** 日本人ではない。

動詞に関しては、動詞自体の持つアスペクトの意味が完全否定の陳述副詞の生起と関係している。日本語の動詞は、動詞自体のアスペクトの意味によって、状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞の4種類に分類される。

- (28) i. 継続動詞：進行の最中である動作・行為を指すもの（食べる、飲む、読む、走る等）  
ii. 瞬間動詞：瞬間的に終わってしまう動作を指すもの（死ぬ、落ちる、消える、点く等）  
iii. 状態動詞：人や物の状態を指すもの（いる、ある、おる、できる等）  
iv. 第四種動詞：人や物がある形状を帯びることを指すもの（そびえる、似る、ありふれる、おもだつ等）

- (29) 継続動詞  
a. 昨日も一昨日も素麺をたべた。  
b. 寝坊したので学校まで全力で走った。

- (30) 瞬間動詞  
a. 私の祖父は去年の夏に死んだ。  
b. そのスイッチを押せば部屋の電気が点く。

- (31) 状態動詞  
a. ここに小さなコップがある。  
b. 長野には従兄弟がいる。

- (32) 第四種動詞  
a. 街の南には巨大な電波塔がそびえている。  
b. 妹の彼氏はキムタクに似ている。

このうち、継続動詞、状態動詞、第四種動詞が述語の否定文に完全否定の陳述副詞は生起する。

- (33) 状態動詞  
a. 休日の教室には **全く** 人が居ない。

- b. 私にはこんな大仕事をやってのける自身は **少しも** ないです。

- (34) 継続動詞  
a. 橘は下戸なのでお酒は **まるで** 飲まない。  
b. 兄貴はラノベは読むが純文学は **全然** 読まない。

- (35) 第四種の動詞  
a. 私と姉は昔から **ちっとも** 似ていない。  
b. この街には高いビルは **一切** そびえていない。

しかし、瞬間動詞が述語の否定文には完全否定の陳述副詞は生起しない。

- (36) 瞬間動詞  
a. \*スーパーマンは悪人の武器では **さっぱり** 死なない。  
b. \*妹は **まるで** 成人していないので お酒は飲めない。

これは完全否定の陳述副詞は「100%ない」ということを表す副詞のため、動作が瞬間的で一回性の動詞とは意味的に相性が合わないからである。

- (37) a. スーパーマンは悪人の気持ちが **さっぱり** わからない。  
b. \*スーパーマンは悪人の武器では **さっぱり** 死なない。

- (38) a. 妹は **まるで** 成長していないので お酒は飲めない。  
b. \*妹は **まるで** 成人していないので お酒は飲めない。

- (39) a. 今の実力では隆也は智に **まるきり** 手も足も出ない。  
b. ?今の実力では隆也は智を **まるきり** 打ち負かせない。

- (40) a. 籠城した犯人は人質を **少しも** 傷つけていないようだ。  
b. \*籠城した犯人は人質を **少しも** 殺していないようだ。

- (41) a. 卒業制作が **全然** 進まない。  
b. \*卒業制作が **全然** 完成しない。

- (42) a. 先週彼に書いた手紙が **さっぱり** 見つからない。  
b. \*先週彼に書いた手紙が **さっぱり** 届かない。

- (43) a. 息子は時間になっても **一切** 出ようとしない。  
b. \*息子は時間になっても **一切** 出かけない。

- (44) a. 搭乗して四時間たったが **全然** アメリカに近づかない  
b. \*搭乗して四時間たったが **全然** アメリカに到着しない。

- (45) a. 英語の授業が **ちっとも** 進まない。

- b. \*英語の授業が **ちっとも** 始まらない。
- (46) a. 北島は泳ぎがうまいので **少しも** 疲れない。
- b. \*北島は泳ぎがうまいので **少しも** 溺れない。
- (47) a. 几帳面な佳奈は財布を **少しも** 出しっぱなしにしない。
- b. \*几帳面な佳奈は財布を **少しも** 紛失しない。

さて、継続動詞が述語の否定文であっても、動作の完了を表す複合動詞を伴った場合には完全否定の陳述副詞は共起しない。

- (48) a. 太郎は その本を **一切** 読まなかった。
- b. \*太郎は その本を **一切** 読みきらなかった。
- (49) a. 健太は朝ごはんを **全然** 食べていない。
- b. \*健太は朝ごはんを **全然** 食べ終えていない。
- (50) a. 先日出された宿題を **ちっとも** していない。
- b. ??先日出された宿題を **ちっとも** 仕上げていない。
- (51) a. 今年はまだ有給を **少しも** 使っていない。
- b. \*今年はまだ有給を **少しも** 使い尽くしていない。
- (52) a. 久しぶりに会った友人は **まるきり** 昔と変わっていなかった。
- b. \*久しぶりに会った友人は **まるきり** 昔と変わり果てていなかった。
- (53) a. 従妹の娘は **少しも** 泣かない。
- b. \*従妹の娘は **少しも** 泣き止まない。

これは、完全否定の陳述副詞が瞬間的で一回性の動作と共起できないということと無関係ではないだろう。完了を表す複合動詞とは、動詞連用形に後接し、その動作が完了及び終了することを表す。

- (54) 完了を表す複合動詞：-切る、-終える、-上げる、-尽くす、-果てる、-止む

継続動詞と共起すると、続いていた動作が完了する瞬間を表すため瞬間的になる。

- (55) 継続動詞+完了の複合動詞
  - a. ボルトは新記録で200Mを走りきった。
  - b. 11時過ぎになって雷の音が鳴り止んだ。

瞬間動詞はそれ自体で動作の完結を表すので元々完了の複合動詞と共起しづらいものも多い[(56)]。ただ、瞬間動詞と共起可能なこともあり、その場合、瞬間的な動作が終

了した結果が継続している意味になる[(57)]。

- (56) 瞬間動詞+完了の複合動詞
  - a. \*もう何年もあっていないので彼の名前は忘れ上げていた。
  - b. \*落とし穴にはまったトムは5mの高さを落ち果てた。
- (57) 瞬間動詞+完了の複合動詞
  - a. 目を離している隙に3歳の息子が家中の窓を開き尽くしていた。
  - b. なんとか時間内に課題の絵を描き終えた。

完了を表す複合動詞は、動作の完了を表す性質から、そもそも動作を表さない、主体の性質を表す状態動詞及び第四種動詞とは共起が難しい。第四種動詞に至っては基本的に「ている」の形で終わるために共起できない。

- (58) 主体の性質を表す状態動詞+完了の複合動詞
  - a. \*故郷が昔のままであり切る。
  - b. \*私の妹はラーメンを好み尽くす。

状態動詞に関しては一部、完了を表す複合動詞と共起しうる例もある。その場合の状態動詞は、継続に近い意味になっている。

- (59) 私は生涯妻を愛し尽くすことを誓います。

さて、容認可能な動作の完了を表す複合動詞を伴った文に完全否定の陳述副詞が生起するか確認してみると、生起した文が容認不可能である。

- (60) 継続動詞+完了の複合動詞との共起
  - a. \*太郎は その本を **一切** 読みきらなかった。
  - b. \*健太は 朝ごはんを **全然** 食べ終えていない。
- (61) 瞬間動詞+完了の複合動詞との共起
  - a. \*目を離している隙に3歳の息子が 家中の窓を **少しも** 開き尽くさなかった。
  - b. \*時間内に 課題の絵を **全く** 書き終えなかった。

このように、完全否定の陳述副詞は「100%ない」ということを表す副詞のため、動作が瞬間的で一回性の動詞とは共起することができないことがわかる。

(62) 動詞に関する制限

完全否定の陳述副詞は一度きりの場合の、瞬間動詞及び、完了を表す複合動詞+継続動詞とは共起することができない。

- i. 完全否定の陳述副詞と共起可能：状態動詞, 継続動詞, 第四種の動詞等
- ii. 完全否定の陳述副詞と共起不可能：瞬間動詞, 動詞+完了の複合動詞

2.4. 程度の副詞「少し」との関連

完全否定の陳述副詞の生起可能性は、対応する肯定文に程度の副詞「少し」等が共起出来るかどうかと関連があるかもしれない。程度の副詞「少し」が共起できる肯定文は程度・頻度を論じる余地があるので、その否定文もまた程度を論じる余地のある文である。よって完全否定の陳述副詞が容認可能な文では対応する肯定文に「少し」が生起可能であるが、完全否定の陳述副詞が容認不可能な文では対応する肯定文に「少し」が生起できない。例えば(63b)は副詞の関連付けられる「暑い」という述語が程度を論じる余地があるために程度の副詞「少し」は生起可能である。よって否定文である(63a)においても完全否定の陳述副詞の生起が容認可能である。対して(64b)は副詞の関連付けられる「読みきる」という述語が一回性で頻度を論じる余地がないために程度の副詞「少し」は生起できない。よって否定文である(64b)においても完全否定の陳述副詞の生起が容認不可能である。

- (63) a. 今日は **全然** 暑くない。  
b. 今日は **少し** 暑い。
- (64) a. \*太郎は その本を **全然** 読みきらなかった。  
b. \*太郎は その本を **少し** 読みきった。
- (65) a. 太郎は その本を **一切** 読まなかった。  
b. 太郎は その本を **少し** 読んだ。
- (66) a. \*太郎は その本を **一切** 読みきらなかった。  
b. \*太郎は その本を **少し** 読みきった。
- (67) a. 健太は朝ごはんを **全然** 食べていない。  
b. 健太は朝ごはんを **少し** 食べた。
- (68) a. \*健太は朝ごはんを **全然** 食べ終えていない。  
b. \*健太は朝ごはんを **少し** 食べ終えた。
- (69) a. 先日出された宿題を **ちっとも** していない。  
b. 先日出された宿題を **少し** している。

- (70) a. ??先日出された宿題を **ちっとも** 仕上げていない。  
b. ??先日出された宿題を **少し** 仕上げた。
- (71) a. 今年は まだ有給を **少しも** 使っていない。  
b. 今年は まだ有給を **少し** 使っていた。
- (72) a. \*今年は まだ有給を **少しも** 使い尽くしていない。  
b. \*今年は まだ有給を **少し** 使い尽くした。
- (73) a. 久しぶりに会った友人は **まるきり** 昔と変わっていなかった。  
b. 久しぶりに会った友人は **少し** 昔と変わっていた。
- (74) a. \*久しぶりに会った友人は **まるきり** 昔と変わり果てていなかった。  
b. \*久しぶりに会った友人は **少し** 昔と変わり果てていた。
- (75) a. 従妹の娘は **少しも** 泣かない。  
b. 従妹の娘は **少し** 泣く。
- (76) a. \*従妹の娘は **少しも** 泣き止まない。  
b. \*従妹の娘は **少し** 泣き止む。
- (77) a. スーパーマンは悪人の気持ちが **さっぱり** わからない。  
b. スーパーマンは悪人の気持ちが **少し** わかる。
- (78) a. \*スーパーマンは悪人の武器では **さっぱり** 死なない。  
b. \*スーパーマンは悪人の武器では **少し** 死ぬ。
- (79) a. 妹は **まるで** 成長してないので お酒は飲めない。  
b. 妹は **少し** 成長しているのでお酒は飲める。
- (80) a. \*妹は **まるで** 成人していないので お酒は飲めない。  
b. \*妹は **少し** 成人しているのでお酒は飲める。
- (81) a. 優子は **ちっとも** 日本人らしくない。  
b. 優子は **少し** 日本人らしい。
- (82) a. \*優子は **ちっとも** 日本人ではない。  
b. \*優子は **少し** 日本人だ。
- (39) a. 今の実力では隆也は智に **まるきり** 手も足も出ない。  
b. \*今の実力では隆也は智を **少し** 手も足もでる。
- (83) a. ?今の実力では隆也は智を **まるきり** 打ち負かせない。

- b. \*今の實力では 隆也は 智を **少し** 打ち負かせる。
- (40) a. 籠城した犯人は人質を **少しも** 傷つけていないようだ。  
b. 籠城した犯人は人質を **少し** 傷つけているようだ。
- (84) a. \*籠城した犯人は人質を **少しも** 殺していないようだ。  
b. \*籠城した犯人は 人質を **少し** 殺しているようだ。
- (41) a. 卒業制作が **全然** 進まない。  
b. 卒業制作が **少し** 進む。
- (85) a. \*卒業制作が **全然** 完成しない。  
b. \*卒業制作が **少し** 完成する。
- (42) a. 先週彼に書いた手紙が **さっぱり** 見つからない。  
b. 先週彼に書いた手紙が **少し** 見つかる。
- (86) a. \*先週彼に書いた手紙が **さっぱり** 届かない。  
b. \*先週 彼に書いた手紙が **少し** 届く。
- (43) a. 息子は時間になっても **一切** 出ようとしなない。  
b. 息子は時間になっても **少し** 出ようとする。
- (87) a. \*息子は時間になっても **一切** 出かけない。  
b. \*息子は 時間になっても **少し** 出かける。
- (44) a. 搭乗して四時間たったが **全然** アメリカに近づかない  
b. 搭乗して四時間たったが **少し** アメリカに近づいた。
- (88) a. \*搭乗して四時間たったが **全然** アメリカに到着しない。  
b. \*搭乗して四時間たったが **少し** アメリカに到着した。
- (45) a. 英語の授業が **ちっとも** 進まない。  
b. 英語の授業が **少し** 進む。
- (89) a. \*英語の授業が **ちっとも** 始まらない。  
b. \*英語の授業が **少し** 始まる。
- (46) a. 北島は泳ぎがうまいので **少しも** 疲れない。  
b. 北島は泳ぎがうまいので **少し** 溺れる。
- (90) a. \*北島は泳ぎがうまいので **少しも** 溺れない。  
b. \*北島は 泳ぎがうまいので **少し** 溺れる。

- (47) a. 几帳面な佳奈は財布を **少しも** 出しばなしにしない。  
b. 几帳面な佳奈は財布を **少し** 出しばなしにする。
- (91) a. \*几帳面な佳奈は財布を **少しも** 紛失しない。  
b. \*几帳面な佳奈は 財布を **少し** 紛失する。
- (92) a. パーティーに 友達が **ちっとも** 来ない。  
b. パーティーに 友達が **少し** 来る。
- (93) a. \*パーティーに 太郎が **ちっとも** 来ない。  
b. \*パーティーに 太郎が **少し** 来る。
- (94) a. 昨日から 生徒の姿が **少しも** ない。  
b. 昨日から 生徒の姿が **少し** ある。
- (95) a. \*昨日から 次郎の姿が **少しも** ない。  
b. \*昨日から 次郎の姿が **少し** ある。
- (96) a. 出兵した兵士は **全然** 生き残っていない。  
a. 出兵した兵士は **少し** 生き残っている。
- (97) a. \*出兵した母方の祖父は **全然** 生き残っていない。  
b. \*出兵した母方の祖父は **少し** 生き残っている。
- (98) a. 夏休みで学校に生徒が **さっぱり** 居ない。  
b. 夏休みで学校に生徒が **少し** 居る。
- (99) a. \*夏休みで学校に藤木が **さっぱり** 居ない。  
b. \*夏休みで 学校に 藤木が **少し** 居る。
- (100) a. 花子は 去年の大学入試に **一切** 合格しなかった。  
b. 花子は 去年の大学入試に **少し** 合格した。
- (101) a. \*花子は 九大の二次試験に **一切** 合格しなかった。  
b. \*花子は 九大の二次試験に **少し** 合格した。
- (102) a. 日本は 環境大国に **ちっとも** なれなかった。  
b. 日本は 環境大国に **少し** なった。
- (103) a. \*日本は 第二次大戦の戦勝国に **ちっとも** なれなかった。  
b. \*日本は 第二次大戦の戦勝国に **少し** なれた。



- (104) a. 田中は成績上位を **少しも** 取れなかった。  
 b. 田中は成績上位を **少し** 取れた。
- (105) a. \*田中は東大主席を **少しも** 取れなかった。  
 b. \*田中は東大主席を **少し** 取れた。
- (106) a. 記憶喪失になった弟は僕のことを **まるで** 覚えていない。  
 b. 記憶喪失になった弟は僕のことを **少し** 覚えている。
- (107) a. \*記憶喪失になった弟は僕の名前を **まるで** 覚えていない。  
 b. \*記憶喪失になった弟は僕の名前を **少し** 覚えている。

### 3. 完全否定の陳述副詞の生起位置

#### 3.1. 単文内での生起位置

##### 3.1.1. 観察

完全否定の陳述副詞は、その種類を問わず、否定辞ナイを伴った述語から離れれば離れるほど容認性は低くなる。

- (108) a. 優子は **ちっとも** 日本人らしくない。  
 b. ?**ちっとも** 優子は 日本人らしくない。
- (109) a. 昨日から 生徒の姿が **まるきり** ない。  
 b. 昨日から **まるきり** 生徒の姿が ない。  
 c. ?**まるきり** 昨日から 生徒の姿が ない。
- (110) a. 今の實力では 隆也は 智を **まるきり** 打ち負かせない。  
 b. 今の實力では 隆也は **まるきり** 智を 打ち負かせない。  
 c. ?今の實力では **まるきり** 隆也は 智を 打ち負かせない。  
 d. \***まるきり** 今の實力では 隆也は 智を 打ち負かせない。
- (111) a. スーパーマンは悪人の気持ちが **さっぱり** わからない。  
 b. スーパーマンは **さっぱり** 悪人の気持ちがわからない。  
 c. ?**さっぱり** スーパーマンは悪人の気持ちがわからない。
- (112) a. 夏休みで 学校に 生徒が **さっぱり** 居ない。  
 b. 夏休みで 学校に **さっぱり** 生徒が 居ない。  
 c. 夏休みで **さっぱり** 学校に 生徒が 居ない。  
 d. \***さっぱり** 夏休みで 学校に 生徒が 居ない。
- (113) a. 太郎は その本を **一切** 読まなかった。  
 b. 太郎は **一切** その本を 読まかった。  
 c. ?**一切** 太郎は その本を 読まなかった。
- (114) a. 箆城した犯人は 人質を **少しも** 傷つけていないようだ。  
 b. ?箆城した犯人は **少しも** 人質を 傷つけてようだ。  
 c. \***少しも** 箆城した犯人は 人質を 傷つけていないようだ。
- (115) a. 今季 田中は **少しも** 成績上位を 取れなかった。  
 b. ?今季 **少しも** 田中は 成績上位を 取れなかった。  
 c. \***少しも** 今季 田中は 成績上位を 取れなかった

- (116) a. 卒業制作が **全然** 進まない。  
 b. ?**全然** 卒業制作が 進まない。
- (117) a. 出兵した兵士は **全然** 生き残っていない。  
 b. \***全然** 出兵した兵士は 生き残っていない。
- (118) a. 花子は **全然** 去年の大学入試に 合格しなかった。  
 b. ?**全然** 花子は 去年の大学入試に 合格しなかった。
- (119) a. パーティーに 参加者が **全く** 来ない。  
 b. パーティーに **全く** 参加者が 来ない。  
 c. ?**全く** パーティーに 参加者が 来ない。
- (120) a. 記憶喪失になった弟は **まるで** 僕のことを 覚えてない。  
 b. \***まるで** 記憶喪失になった弟は 僕のことを 覚えてない。

この現象は、疑問文でも同様に見られる。以下は、Yes/No 疑問文の場合である。<sup>2</sup>

- (121) a. 彼は 昨夜 **全然** 寝てないの？  
 b. 彼は **全然** 昨夜 寝てないの？

<sup>2</sup> 疑問文で「違う」という否定的表現が述語の場合、完全否定の副詞によって容認性に差が出てくる。これは、肯定の平叙文のときでも見られるものである。

- (i) a. 日本の暮らしと 海外の暮らしは **まるきり** 違いますか？  
 b. 日本の暮らしと **まるきり** 海外の暮らしは 違いますか？  
 c. ?**まるきり** 日本の暮らしと 海外の暮らしは 違いますか？
- (ii) a. 日本の暮らしと 海外の暮らしは **全く** 違いますか？  
 b. 日本の暮らしと **全く** 海外の暮らしは 違いますか？  
 c. ?**全く** 日本の暮らしと 海外の暮らしは 違いますか？
- (iii) a. 日本の暮らしと 海外の暮らしは **さっぱり** 違いますか？  
 b. 日本の暮らしと **さっぱり** 海外の暮らしは 違いますか？  
 c. ?**さっぱり** 日本の暮らしと 海外の暮らしは 違いますか？
- (iv) a. \*日本の暮らしと 海外の暮らしは **ちっとも** 違いますか？  
 b. \*日本の暮らしと **ちっとも** 海外の暮らしは 違いますか？  
 c. \***ちっとも** 日本の暮らしと 海外の暮らしは 違いますか？
- (v) a. 日本の暮らしと海外の暮らしは **まるきり** 違うじゃないか。  
 b. 日本の暮らしと海外の暮らしは **全く** 違うじゃないか。  
 c. ??日本の暮らしと海外の暮らしは **さっぱり** 違うじゃないか。  
 d. \*日本の暮らしと海外の暮らしは **ちっとも** 違うじゃないか。

ところが、容認できない「ちっとも」を否定の平叙文の中で使った場合、「違う」といった否定的表現を述語とする文でも生起できる。

- (vi) a. 日本の暮らしと 海外の暮らしは **ちっとも** 違わないですか？  
 b. 日本の暮らしと **ちっとも** 海外の暮らしは 違わないですか？  
 c. ?**ちっとも** 日本の暮らしと 海外の暮らしは 違わないですか？

- c. ?**全然** 彼は 昨夜 寝てないの？

- (122) a. 彼は 昨夜 **さっぱり** 寝てないの？  
 b. 彼は **さっぱり** 昨夜 寝てないの？  
 c. ?**さっぱり** 彼は 昨夜 寝てないの？

- (123) a. ?彼は 昨夜 **まるで** 寝てないの？  
 b. ?彼は **まるで** 昨夜 寝てないの？  
 c. ?**まるで** 彼は 昨夜 寝てないの？

- (124) a. 彼は 昨夜 **少しも** 寝てないの？  
 b. 彼は **少しも** 昨夜 寝てないの？  
 c. ?**少しも** 彼は 昨夜 寝てないの？

wh 疑問文の場合も同様に、完全否定の陳述副詞は否定辞ナイを伴った述語から離れれば離れるほど容認性は低くなる<sup>3</sup>。

- (125) 「誰」
- a. 昨日 **誰が** 掃除を **全く** しなかったのですか？  
 b. 昨日 **誰が** **全く** 掃除を しなかったのですか？  
 c. \*昨日 **全く** **誰が** 掃除を しなかったのですか？  
 d. \***全く** 昨日 **誰が** 掃除を しなかったのですか？

- (126) 「何」
- a. 京介は 両親から **何を** **少しも** 教えられなかったのですか？

<sup>3</sup> 「いくら」「いくつ」は、完全否定の陳述副詞とは共起することができない。

- (i) a. **いくら** 彼は バーで 払わなかったのですか？  
 b. \***いくら** 彼は バーで **全然** 払わなかったのですか？  
 c. \***いくら** 彼は バーで **さっぱり** 払わなかったのですか？  
 d. **いくら** 彼は バーで **一切** 払わなかったのですか？  
 e. \***いくら** 彼は バーで **ちっとも** 払わなかったのですか？
- (ii) a. **いくつ** 探している本が 見つからないのですか？  
 b. \***いくつ** 探している本が **全く** 見つからないのですか？  
 c. \***いくつ** 探している本が **さっぱり** 見つからないのですか？  
 d. \***いくつ** 探している本が **まるで** 見つからないのですか？  
 e. \***いくつ** 探している本が **少しも** 見つからないのですか？

これは「いくら」「いくつ」がモノの存在を前提にした上でその数量を問う疑問詞であり、「100% そのデキゴトがない」ことを意味すると完全否定の陳述副詞と意味的に合わないからである。

- b. 京介は 両親から **少しも** 何を 教えられなかったのですか？
- c. 京介は **少しも** 両親から 何を 教えられなかったのですか？
- d. **\*少しも** 京介は 両親から 何を 教えられなかったのですか？

(127) 「いつ」

- a. 前回の上映で いつ 音が **全く** 聞こえなかった？
- b. 前回の上映で いつ **全く** 音が 聞こえなかった？
- c. \*前回の上映で **全く** いつ 音が 聞こえなかった？
- d. **\*全く** 前回の上映で いつ 音が 聞こえなかった？

(128) 「どこ」

- a. 観光客は どこに **全く** いないの？
- b. 観光客は **全く** どこに いないの？
- c. **\*全く** 観光客は どこに いないの？

(129) 「なぜ」

- a. サトシは なぜ カナに そのことを **全く** 相談しなかったのだろうか？
- b. サトシは なぜ カナに **全く** そのことを 相談しなかったのだろうか？
- c. サトシは なぜ **全く** カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？
- d. \*サトシは **全く** なぜ カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？
- e. **\*全く** サトシは なぜ カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？

(130) 「どうやって」

- a. 先輩は どうやって 赤点を **全く** 取らなかったのですか？
- b. 先輩は どうやって **全く** 赤点を 取らなかったのですか？
- c. \*先輩は **全く** どうやって 赤点を 取らなかったのですか？
- d. **\*全く** 先輩は どうやって 赤点を 取らなかったのですか？

この現象は、同じ疑問文で疑問詞の位置を変えても、同様に見られる。

(131) 文頭の「誰」

- a. 誰が 昨日 掃除を **全く** しなかったのですか？
- b. 誰が 昨日 **全く** 掃除を しなかったのですか？
- c. 誰が **全く** 昨日 掃除を しなかったのですか？
- d. **\*全く** 誰が 昨日 掃除を しなかったのですか？

(132) 文頭の「何」

- a. 何を 京介は 両親から **全然** 教えられなかったのですか？
- b. 何を 京介は **全然** 両親から 教えられなかったのですか？
- c. ?何を **全然** 京介は 両親から 教えられなかったのですか？
- d. **\*全然** 何を 京介は 両親から 教えられなかったのですか？

(133) 文頭の「いつ」

- a. いつ 前回の上映で 音が **全く** 聞こえなかった？
- b. いつ 前回の上映で **全く** 音が 聞こえなかった？
- c. ?いつ **全く** 前回の上映で 音が 聞こえなかった？
- d. **\*全く** いつ 前回の上映で 音が 聞こえなかった？

(134) 文頭の「どこ」

- a. どこに 観光客は **全く** いないの？
- b. どこに **全く** 観光客は いないの？
- c. **\*全く** どこに 観光客は いないの？

(135) 文頭の「なぜ」

- a. なぜ サトシは カナに そのことを **全く** 相談しなかったのだろうか？
- b. なぜ サトシは カナに **全く** そのことを 相談しなかったのだろうか？
- c. なぜ サトシは **全く** カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？
- d. ?なぜ **全く** サトシは カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？
- e. **\*全く** なぜ サトシは カナに そのことを 相談しなかったのだろうか？

(136) 文頭の「どうやって」

- a. どうやって 先輩は 赤点を **全く** 取らなかったのですか？
- b. どうやって 先輩は **全く** 赤点を 取らなかったのですか？
- c. ?どうやって **全く** 先輩は 赤点を 取らなかったのですか？
- d. **\*全く** どうやって 先輩は 赤点を 取らなかったのですか？

また、同じことは、疑問詞の文の中での役割を変えても、同様に見られる。まず、疑問詞「誰」の例を示す。

(137) 「誰が」

- a. 昨日 誰が 掃除を **全く** しなかったのですか？
- b. 昨日 誰が **全く** 掃除を しなかったのですか？

- c. \*昨日 **全く** 誰が 掃除を しなかったのですか？
- d. \***全く** 昨日 誰が 掃除を しなかったのですか？

(138) 「誰を」

- a. 部長が 部の集まりに 誰を **全然** 呼んでいないのですか？
- b. 部長が 部の集まりに **全然** 誰を 呼んでいないのですか？
- c. 部長が **全然** 部の集まりに 誰を 呼んでいないのですか？
- d. \***全然** 部長が 部の集まりに 誰を 呼んでいないのですか？

(139) 「誰に」 (二項動詞)

- a. ジョンが 誰に **少しも** 会わなかったのですか？
- b. ジョンが **少しも** 誰に 会わなかったのですか？
- c. \***少しも** ジョンが 誰に 会わなかったのですか？

(140) 「誰に」 (三項動詞)

- a. ジョンが プレゼントを 誰に **少しも** 渡さなかったのですか？
- b. ジョンが プレゼントを **少しも** 誰に 渡さなかったのですか？
- c. ?ジョンが **少しも** プレゼントを 誰に 渡さなかったのですか？
- d. \***少しも** ジョンが プレゼントを 誰に 渡さなかったのですか？

(141) 項の「誰と」

- a. ジョンが 誰と **少しも** ケンカしなかったのですか？
- b. ジョンが **少しも** 誰と ケンカしなかったのですか？
- c. \***少しも** ジョンが 誰と ケンカしなかったのですか？

(142) 付加詞の「誰と」

- a. ジョンが 誰と **少しも** 学校に 行かなかったのですか？
- b. ジョンが **少しも** 誰と 学校に 行かなかったのですか？
- c. \***少しも** ジョンが 誰と 学校に 行かなかったのですか？

続いて、疑問詞「何」の例を示す。

(143) 「何が」

- a. 浩は 何が **ちっとも** わからないのですか？
- b. 浩は **ちっとも** 何が わからないのですか？
- c. \***ちっとも** 浩は 何が わからないのですか？

(144) 「何を」

- a. 京介は 両親から 何を **全然** 教えられなかったのですか？
- b. 京介は 両親から **全然** 何を 教えられなかったのですか？
- c. 京介は **全然** 両親から 何を 教えられなかったのですか？
- d. \***全然** 京介は 両親から 何を 教えられなかったのですか？

(145) 「何に」

- a. 彼は 何に **ちっとも** 勝てないのですか？
- b. 彼は **ちっとも** 何に 勝てないのですか？
- c. \***ちっとも** 彼は 何に 勝てないのですか？

また、以下の焦点構文<sup>4</sup>の焦点位置に疑問詞がある wh 疑問文を見ると、完全否定の陳述副詞が関連付けられる否定辞との間の項が上記の例よりも少なくなるために容認性が上がっている。

(146) 「誰が」が焦点位置

- a. 昨日 掃除を **全く** しなかったのは 誰ですか？
- b. 昨日 **全く** 掃除を しなかったのは 誰ですか？
- c. ??**全く** 昨日 掃除を しなかったのは 誰ですか？
- d. \*昨日 掃除を しなかったのは **全く** 誰ですか？

(147) 「誰を」が焦点位置

- a. 部長が 部の集まりに **全然** 呼んでいないのは 誰ですか？
- b. 部長が **全然** 部の集まりに 呼んでいないのは 誰ですか？
- c. ??**全然** 部長が 部の集まりに 呼んでいないのは 誰ですか？
- d. \*部長が 部の集まりに 呼んでいないのは **全然** 誰ですか？

(148) 「誰に」が焦点位置

- a. ジョンが プレゼントを **少しも** 渡さなかったのは 誰にですか？
- b. ジョンが **少しも** プレゼントを 渡さなかったのは 誰にですか？
- c. ??**少しも** ジョンが プレゼントを 渡さなかったのは 誰にですか？
- d. \*ジョンが プレゼントを 渡さなかったのは **少しも** 誰にですか？

<sup>4</sup> 焦点構文とは、例えば(ia)の「ご飯」を強調したいときに見られる(ib)のような文型を指す。

- (i) a. 太郎が ご飯を 食べた。
- b. 太郎が 食べたのは ご飯だ。  
<焦点>

(149) 「何が」が焦点位置

- a. 浩が ちっとも わからないのは 何ですか？
- c. ちっとも 浩が わからないのは 何ですか？
- b. \*浩が わからないのは ちっとも 何ですか？

(150) 「何を」が焦点位置

- a. 京介が 両親から 全然 教えられなかったのは 何ですか？
- b. 京介が 全然 両親から 教えられなかったのは 何ですか？
- c. ??全然 京介が 両親から 教えられなかったのは 何ですか？
- d. \*京介が 両親から 教えられなかったのは 全然 何ですか？

(151) 「何に」が焦点位置

- a. 彼が ちっとも 勝てないのは 何にですか？
- b. ちっとも 彼が 勝てないのは 何にですか？
- c. \*彼が 勝てないのは ちっとも 何にですか？

### 3.1.2. 考察

なぜのように、位置によって容認性に違いが出てくるのであろうか。吉村(1999)は、「決して」「びた一文」のような否定文脈にのみ適切に現れることができる表現について考察し、(152)のような構造的条件があることを主張している。

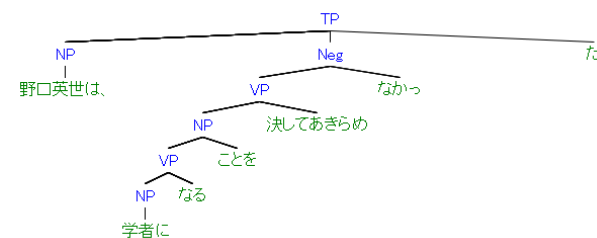
(152) 吉村(1999)の分析

- i. 否定極性項目とは、否定文脈にのみ適切に現れることができる表現である。
- ii. 否定極性項目は、否定辞ナイや「違う」のように否定の文を作る NPI 認可表現に c-command されなければならない。

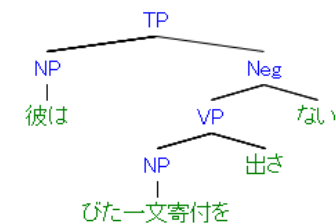
(153)の構造条件を(152)の例文で説明している。(152a)は(153)のように NPI 認可表現「なかつ」と枝分かれする節点 Neg より下の層に否定極性項目「決して」が現れる。つまり否定極性項目「決して」は NPI 認可表現に c-command される位置に生起している。(153b)も同様に否定極性項目「びた一文」は NPI 認可表現「ない」に c-command される位置に生起している。

- (153) a. [TP [NP 野口英世は、][Neg [VP [NP [VP [NP 学者に]なる]ことを]決してあきらめ]なかつ]た]。(吉村 1999 4-101a)
- b. [TP [NP 彼は][Neg [VP [NP [NP びた一文寄付を]出さ]ない]]]。(吉村 1999 4-102a)

(154)



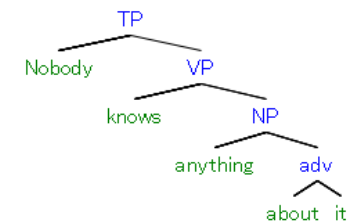
(155)



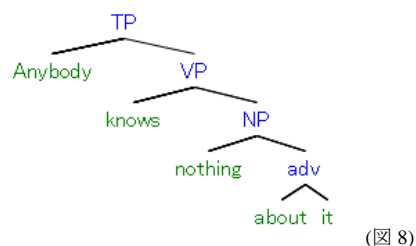
吉村(1999)では(156)の例を使って(152)の ii の条件を説明している。「anything」と「anybody」はともに否定極性項目であるが(156a)は NPI 認可表現「nobody」が「anything」を c-command するので否定極性項目は生起可能である。対して(156b)は NPI 認可表現「nothing」が「anybody」を c-command できないので否定極性項目は生起不可能であり非文となる。

- (156) a. **Nobody** knows anything about it. (吉村 1999 7-6a)
- b. \*Anybody knows **nothing** about it. (吉村 1999 7-6b)

(157)



(158)



本論で扱っている完全否定の陳述副詞は、通常肯定文に使われることがなく、否定文に現れて否定表現を強調する点から、吉村(1999)でいうところの否定極性項目に相当すると思われる。だとすると、完全否定の陳述副詞は、否定辞により c-command される位置に現れると考えられ、c-command されない位置に否定副詞がくると容認できないということになる。

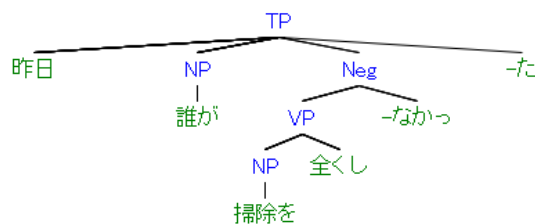
(159) 完全否定の陳述副詞の生起位置

wh 疑問文の場合、完全否定の陳述副詞は Neg 節内に生起しなければならない。

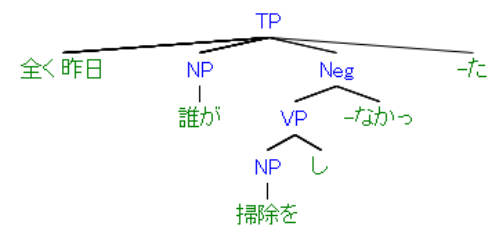
例えば、(160a)は完全否定の陳述副詞「全く」が構造上 Neg 節内に生起し否定辞に c-command される位置にあるため容認されるが、(160c)は完全否定の陳述副詞「全く」が構造上 Neg 節内になく否定辞に c-command されないため容認できない。

- (160) a. [TP 昨日 [NP 誰が] [Neg [VP [NP 掃除を] **全く** し]-なかつ]-た] のですか?  
 b. [TP 昨日 [NP 生徒が] [Neg [VP [NP 掃除を] **全く** し]-なかつ]た。]  
 c. \* [TP **全く** 昨日 [NP 誰が] [Neg [VP [NP 掃除を] し]-なかつ]-た] のですか?

(161)



(162)



構造を樹形図で現したとき(160a)は(161)のようになり、否定副詞「全く」は否定辞「なかつ」と枝分かれする節点 Neg より下の層に現れる。(160c)は(162)のようになり、否定副詞「全く」は否定辞「なかつ」と枝分かれする節点 Neg より上の層に現れるため否定辞に c-command されず生起することができない。

### 3.2. 従属節を含む文での生起位置

#### 3.2.1. 観察 1

完全否定の陳述副詞は、その係り先の否定文と節境界を越えた位置に置かれると関係付ができなくなる<sup>5</sup>。まず、副詞の生起位置によって、主節の否定要素と関係づける解釈が容認可能かどうかを見てみる。

(163) 名詞節

- a. 透は [ジョンが パーティーに 来たこと] を **全然** 知らない。  
 b. 透は **全然** [ジョンが パーティーに 来たこと] を 知らない。  
 c. ??透は [ジョンが **全然** パーティーに 来たこと] を 知らない。  
 d. \*透は [ジョンが パーティーに **全然** 来たこと] を 知らない。

(164) 副詞節<sup>6</sup>

<sup>5</sup> 完全否定の陳述副詞の係り先を、以下の例では下線で示す。

<sup>6</sup> 類例を挙げておく。

- (i) a. 妹は お酒が まるで 飲めない。  
 b. 妹は [成人していないので] お酒が まるで 飲めない。  
 c. 妹は [成人していないので] まるで お酒が 飲めない。  
 d. \*妹は [まるで 成人していないので] お酒が 飲めない。  
 e. ?まるで 妹は [成人していないので] お酒が 飲めない。

- a. 妹は お酒が **全然** 飲めない。
- b. 妹は [参加者が 誰も 成人していないので] お酒が **全然** 飲めない。
- c. 妹は [参加者が 誰も 成人していないので] **全然** お酒が 飲めない。
- d. ?妹は [参加者が 誰も **全然** 成人していないので] お酒が 飲めない。
- e. ?妹は [参加者が **全然** 誰も 成人していないので] お酒が 飲めない。
- f. \*妹は **全然** [参加者が 誰も 成人していないので] お酒が 飲めない。
- g. \***全然** 妹は [参加者が 誰も 成人していないので] お酒が 飲めない。

(165) 連体修飾節<sup>7</sup>

- a. 透は [パーティーに 来た] 人が **さっぱり** わからない。
- b. \*透は [パーティーに **さっぱり** 来た] 人が わからない。
- c. 透は **さっぱり** [パーティーに 来た] 人が わからない。

(166) 並列節

- a. 妹が お酒を 飲んで 弟が **まるで** お酒を 飲まなかった。
- b. 妹が お酒を 飲んで **まるで** 弟が お酒を 飲まなかった。
- c. \*妹が お酒を **まるで** 飲んで 弟が お酒を 飲まなかった。
- d. \*妹が **まるで** お酒を 飲んで 弟が お酒を 飲まなかった。
- e. \***まるで** 妹が お酒を 飲んで 弟が お酒を 飲まなかった。

(167) 引用節

- a. 透は [パーティーに 来い] と **まったく** 言わなかった。
- b. ??透は [パーティーに **まったく** 来い] と 言わなかった。
- c. 透は **まったく** [パーティーに 来い] と 言わなかった。

(168) 間接疑問節

- a. 透は [誰が] パーティーに 来たか] **さっぱり** わからない。
- b. 透は **さっぱり** [誰が] パーティーに 来たか] わからない。
- c. ??透は [誰が] **さっぱり** パーティーに 来たか] わからない。
- d. \*透は [誰が] パーティーに **さっぱり** 来たか] わからない。

- (169) a. 透は [何を] 次郎が パーティーに 持っていったか] **さっぱり** 覚えていない

<sup>7</sup> 類例を挙げておく。

- (i) a. 結局 [努力し続けた] 日本は **ちっとも** 環境大国に なれなかった。
- b. \*結局 [ちっとも 努力し続けた] 日本は 環境大国に なれなかった。
- c. \***ちっとも** 結局 [努力し続けた] 日本は 環境大国に なれなかった。

い。

- b. \*透は [何を] 次郎が パーティーに **さっぱり** 持っていったか] 覚えていない。
- c. ??透は [何を] 次郎が **さっぱり** パーティーに 持っていったか] 覚えていない。
- d. 透は **さっぱり** [何を] 次郎が パーティーに 持っていったか] 覚えていない。

- (170) a. 透は [いつ] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] **さっぱり** 覚えていない。

- b. \*透は [いつ] 次郎が パーティーに ケーキを **さっぱり** 持っていったか] 覚えていない。
- c. \*透は [いつ] 次郎が パーティーに **さっぱり** ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- d. \*透は [いつ] 次郎が **さっぱり** パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- e. 透は **さっぱり** [いつ] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- f. **さっぱり** 透は [いつ] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。**さっぱり** 透は [いつ] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。

- (171) a. 透は [どうして] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] **さっぱり** 覚えていない。

- b. \*透は [どうして] 次郎が パーティーに ケーキを **さっぱり** 持っていったか] 覚えていない。
- c. \*透は [どうして] 次郎が パーティーに **さっぱり** ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- d. \*透は [どうして] 次郎が **さっぱり** パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- e. \*透は [どうして] **さっぱり** 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- f. 透は **さっぱり** [どうして] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- g. **さっぱり** 透は [どうして] 次郎が パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。

- (172) a. 透は [なぜ] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] **さっぱり** 覚えていない。  
 b. \*透は [なぜ] 次郎がパーティーに ケーキを **さっぱり** 持っていったか] 覚えていない。  
 c. \*透は [なぜ] 次郎がパーティーに **さっぱり** ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 d. \*透は [なぜ] 次郎が **さっぱり** パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 e. \*透は [なぜ] **さっぱり** 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 f. 透は **さっぱり** [なぜ] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 g. **さっぱり** 透は [なぜ] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。
- (173) a. 透は [どのように] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] **さっぱり** 覚えていない。  
 b. \*透は [どのように] 次郎がパーティーに ケーキを **さっぱり** 持っていったか] 覚えていない。  
 c. \*透は [どのように] 次郎がパーティーに **さっぱり** ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 d. \*透は [どのように] 次郎が **さっぱり** パーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 e. \*透は [どのように] **さっぱり** 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 f. 透は **さっぱり** [どのように] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。  
 g. **さっぱり** 透は [どのように] 次郎がパーティーに ケーキを 持っていったか] 覚えていない。

次に、副詞の生起位置によって、従属節の否定要素と関係づける解釈が容認可能かどうかを見してみる。副詞が否定辞から離れるほど容認性は低くなり、従属節の外に出ると容認できない。

- (174) a. 透は [誰が] パーティーに **全然** 来ないか] わかった。

- b. 透は [誰が] **全然** パーティーに 来ないか] わかった。  
 c. ?透は [全然] [誰が] パーティーに 来ないか] わかった。

- (175) a. \*透は [何を] 次郎が 捨てなかったか] **ちっとも** 覚えている。  
 b. 透は [何を] 次郎が **ちっとも** 捨てなかったか] 覚えている。  
 c. 透は [何を] **ちっとも** 次郎が 捨てなかったか] 覚えている。  
 d. ?透は [ちっとも] [何を] 次郎が 捨てなかったか] 覚えている。  
 e. \***ちっとも** 透は [何を] 次郎が 捨てなかったか] 覚えている。

- (176) a. \*透は [いつ] 次郎が 歌を 歌わなかったか] **ちっとも** 覚えている。  
 b. 透は [いつ] 次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったか] 覚えている。  
 c. 透は [いつ] 次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったか] 覚えている。  
 d. 透は [いつ] **ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったか] 覚えている。

- (177) a. \*透は [どうして] 次郎が 歌を 歌わなかったか] **ちっとも** 覚えている。  
 b. 透は [どうして] 次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったか] 覚えている。  
 c. 透は [どうして] 次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったか] 覚えている。  
 d. 透は [どうして] **ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったか] 覚えている。

- (178) a. \*透は [なぜ] 次郎が 歌を 歌わなかったか] **ちっとも** 覚えている。  
 b. 透は [なぜ] 次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったか] 覚えている。  
 c. 透は [なぜ] 次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったか] 覚えている。  
 d. 透は [なぜ] **ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったか] 覚えている。

- (179) a. \*透は [どのように] 次郎が 歌を 歌わなかったか] **ちっとも** 覚えている。  
 b. 透は [どのように] 次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったか] 覚えている。  
 c. 透は [どのように] 次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったか] 覚えている。  
 d. 透は [どのように] **ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったか] 覚えている。

### 3.2.2. 観察2

ところが、焦点位置に疑問詞があるタイプの間接疑問節を持つ文では、上で見た観察とは違う振舞いが見られる。主節の否定要素と関係づけた解釈が容認可能な副詞の位置を見ると、同じ節内に副詞が生起していない場合であっても、容認可能な場合がある。

- (180) a. 透は [パーティーに 来たのは] [誰か] **全く** わからない。  
 b. 透は [パーティーに 来たのは] **全く** [誰か] わからない。





覚えていない。

これらの例から、間接疑問節の焦点位置に副詞が置かれた場合、主節の否定要素と関係づけた解釈が可能であることがわかる。

一方、同じ間接疑問節でも、従属節の否定要素と関係づけ可能な解釈が生じる副詞の位置を見ると、他の従属節の場合と同様、同じ節内にはない時は容認できない。

- (186) a. \*透は [パーティーに 来ないのは 誰か] **全然** わかった。  
b. \*透は [パーティーに 来ないのは **全然** 誰か] わかった。  
c. 透は [パーティーに **全然** 来ないのは 誰か] わかった。  
d. 透は [**全然** パーティーに 来ないのは 誰か] わかった。  
e. \***全然** 透は [パーティーに 来ないのは 誰か] わかった。
- (187) a. \*透は [次郎が 捨てなかったのは 何か] **ちっとも** 覚えている。  
b. \*透は [次郎が 捨てなかったのは **ちっとも** 何か] 覚えている。  
c. 透は [次郎が **ちっとも** 捨てなかったのは 何か] 覚えている。  
d. 透は [**ちっとも** 次郎が 捨てなかったのは 何か] 覚えている。  
e. \***ちっとも** 透は [次郎が 捨てなかったのは 何か] 覚えている。
- (188) a. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは いつか] **ちっとも** 覚えている。  
b. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは **ちっとも** いつか] 覚えている。  
c. 透は [次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったのは いつか] 覚えている。  
d. 透は [次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったのは いつか] 覚えている。  
e. 透は [**ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったのは いつか] 覚えている。  
f. \***ちっとも** 透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは いつか] 覚えている。
- (189) a. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは どうしてか] **ちっとも** 覚えている。  
b. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは **ちっとも** どうしてか] 覚えている。  
c. 透は [次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったのは どうしてか] 覚えている。  
d. 透は [次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったのは どうしてか] 覚えている。  
e. 透は [**ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったのは どうしてか] 覚えている。  
f. \***ちっとも** 透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは どうしてか] 覚えている。
- (190) a. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは なぜか] **ちっとも** 覚えている。  
b. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは **ちっとも** なぜか] 覚えている。  
c. 透は [次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったのは なぜか] 覚えている。  
d. 透は [次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったのは なぜか] 覚えている。

- e. 透は [**ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったのは なぜか] 覚えている。  
f. \***ちっとも** 透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは なぜか] 覚えている。

- (191) a. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは どのようにか] **ちっとも** 覚えている。  
b. \*透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは **ちっとも** どのようにか] 覚えている。  
c. 透は [次郎が 歌を **ちっとも** 歌わなかったのは どのようにか] 覚えている。  
d. 透は [次郎が **ちっとも** 歌を 歌わなかったのは どのようにか] 覚えている。  
e. 透は [**ちっとも** 次郎が 歌を 歌わなかったのは どのようにか] 覚えている。  
f. \***ちっとも** 透は [次郎が 歌を 歌わなかったのは どのようにか] 覚えている。

### 3.2.3. 観察1の考察

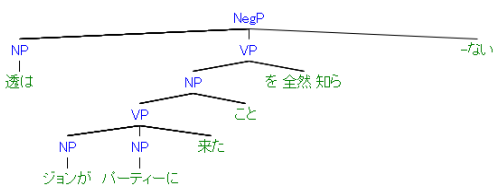
吉村(1999)では単に否定極性項目は NPI 認可表現に c-command される位置に生起する必要があると論じていたが、本論では更に従属節を持つ文と共起するとき従属節の VP 節内に入れられないことを生起条件に加える。例えば(192)の構造は(193)のようになり、従属節の VP 内に副詞があると従属節内の述語と関係付けられる。(図5)は(193a)の樹形図であり完全否定の陳述副詞「全然」は Neg 節内にあり、かつ従属節の VP 内にはないため生起できる。対して(図6)は(193d)の樹形図であり完全否定の陳述副詞「全然」は Neg 節内にあるが、同時に従属節の VP 内にも入っているため生起できない。

#### (192) 名詞節

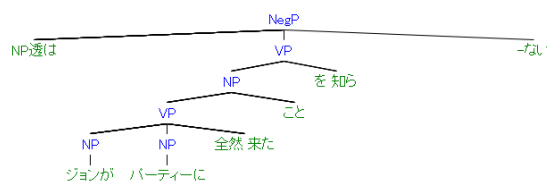
- a. 透は [ジョンが パーティーに 来たこと] を **全然** 知らない。  
b. 透は **全然** [ジョンが パーティーに 来たこと] を 知らない。  
c. ??透は [ジョンが **全然** パーティーに 来たこと] を 知らない。  
d. \*透は [ジョンが パーティーに **全然** 来たこと] を 知らない。

- (193) a. [<sub>NegP</sub> [<sub>NP</sub> 透は] [<sub>VP</sub> [<sub>NP</sub> [NP ジョンが] [<sub>NP</sub> パーティーに] 来た] こと] を **全然** 知ら]-ない]。  
b. [<sub>NegP</sub> [<sub>NP</sub> 透は] **全然** [<sub>VP</sub> [<sub>NP</sub> [NP ジョンが] [<sub>NP</sub> パーティーに] 来た] こと] を 知ら]-ない]。  
c. ??[<sub>NegP</sub> [<sub>NP</sub> 透は] [<sub>VP</sub> [<sub>NP</sub> [NP ジョンが] **全然** [<sub>NP</sub> パーティーに] 来た] こと] を 知ら]-ない]。  
d. \*[<sub>NegP</sub> [<sub>NP</sub> 透は] [<sub>VP</sub> [<sub>NP</sub> [NP ジョンが] [<sub>NP</sub> パーティーに] **全然** 来た] こと] を 知ら]-ない]。

(194)



(195)



### 3.2.4. 観察2の考察

(196) 完全否定の陳述副詞の生起位置

完全否定の陳述副詞は、主節内になくても他の動詞節内に生起しなければ容認可能になる。

(168a)は完全否定の陳述副詞が主節内の否定要素にかかるが、(168b), (168c)は主節内の否定時より近い直近の従属節内の述語に関係付けられるため非文となる。また(168d)は、副詞が関係付けられる否定要素から離れるため(168a)と同じ意味で解釈しづらい。このように以下他の疑問詞節に関しても同様に副詞が従属節のVP内にある場合は生起不可能でありVP内にない場合否定辞に近いほど容認性は上がる。

(168) 間接疑問節

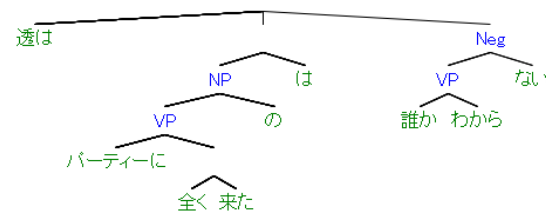
- a. 透は [誰か] パーティーに 来たか] さっぱり わからない。
- b. 透は さっぱり [誰か] パーティーに 来たか] わからない。
- c. ??透は [誰か] さっぱり パーティーに 来たか] わからない。
- d. \*透は [誰か] パーティーに さっぱり 来たか] わからない。

例えば(197a, b)の文は両方共完全否定の陳述副詞「全く」が主節内になく「パーティーに来たのは誰か」という間接疑問節内に生起しているがそれぞれの文の容認性は違っている。これは(197a)では「全く」が間接疑問節の「来た」の動詞節内に位置するため「全く」が「来た」に関連付けられてしまうからである。一方(197b)は同様に間接疑問節内にあるが「来た」の動詞節内にはないため主節の「わからない」と関連付けられるためである。

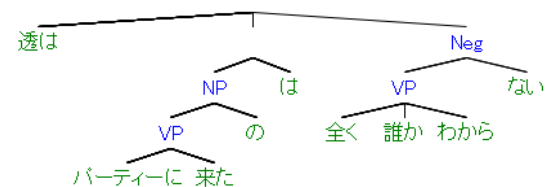
(197) a. \*透は [パーティーに 全く 来たのは誰か] わからない。

b. 透は [パーティーに 来たのは 全く 誰か] わからない。

(198)



(199)



逆に(200a)のように従属節内の述語が否定辞を伴っている場合「全く」は従属節内の動詞と関連付けられる位置にあっても生起可能である。このことから完全否定の陳述副詞はNeg節内にある直近の述語と関連付けられるということがわかる。

(200) a. 透は [パーティーに 全く 来なかったのは誰か] わからない。

b. 透は [パーティーに 来なかったのは 全く 誰か] わからない。

間接疑問節をもつ文との完全否定の陳述副詞の共起についても wh 疑問文との共起と

同様に「いくつ・何人」を除いて疑問詞による違いはない<sup>8</sup>。

<sup>8</sup> いくつ・何人のような関係詞は数量を表す疑問詞であるため完全否定の陳述副詞は関係節中の述語との関連付けができない。

- (i)
- a. \*透は [何人] 学生がパーティーに さっぱり 出席しなかったか] 知っている。
  - b. \*透は [何人] 学生が さっぱり パーティーに 出席しなかったか] 知っている。
  - c. \*透は [何人] さっぱり 学生がパーティーに 出席しなかったか] 知っている。
  - d. \*透は さっぱり [何人] 学生がパーティーに 出席しなかったか] 知っている。
  - e. \*さっぱり 透は [何人] 学生がパーティーに 出席しなかったか] 知っている。
  - f. \*透は [何人] 学生がパーティーに 出席しなかったか] さっぱり 知っている。
- (ii)
- a. \*僕は さっぱり [いくつ] コップが なかったか] 覚えている。
  - b. \*僕は [いくつ] さっぱり コップが なかったか] 覚えている。
  - c. \*僕は [いくつ] コップが さっぱり なかったか] 覚えている。
  - d. \*僕は [いくつ] コップが なかったか] さっぱり 覚えている。

#### 4. 個々の完全否定の陳述副詞の用法

##### 4.1. さっぱり

「さっぱり」は「覚えてない」や、「分からない」等の知覚動詞の否定形とともに共起するときや、期待と反した状況に使われる。「きれいさっぱり」という表現のように「あとかたもなく完全に」の意味。

- (201) a. 高橋は田中のことは さっぱり 分からない。  
b. 今日は魚が さっぱり 釣れない。

##### 4.2. 少しも・ちっとも

「少しも、ちっとも」は事態が動かない、変わらない状態を表すときに使われることが多い。また他の完全否定の陳述副詞と違い否定辞のつかない否定をあらわす述語(「ダメだ」や「違う」等)との共起はできない。

- (202) 二時間前からファイルのダウンロードが **ちっとも** 進んでいない。  
(203) 久しぶりに会った同級生はみんな **少しも** 変わってなかった。  
(204) a. \*陸上部のキャプテンも泳ぎに関しては **ちっとも/少しも** ダメだ。  
b. 陸上部のキャプテンも泳ぎに関しては **まるで/全然/さっぱり** ダメだ。  
c. 陸上部のキャプテンも泳ぎに関しては **ちっとも/少しも** ダメではない。

##### 4.3. まるで、まるきり、一切

「まるで、まるきり、一切」は不可能であることをあらわす場合に使われ、あまり自然現象等には使われない。

- (205) a. クレーマーとの会話では **まるで** 話にならない。  
b. 文系の僕は数Ⅲは **まるきり** 分からない。  
c. この部屋にあるものは **一切** 触ってはならない。  
d. \*今年台風が **まるで/まるきり** やってこない。

##### 4.4. 全く、全然

「全く、全然」は否定を強調するときに使う。

- (206) a. 私はそこの店の料理を **全く** 食べたことがないのです。  
b. 彼女は君のことを **全然** 知らなかったよ。

## 5. 結論

完全否定の陳述副詞には意味的な制限として、(i.)動作主の制限（動作主が特定の個人及び個体である文には生起できない）、(ii.)動作の対象の制限は（動作の対象が一度きりの特定の個人及び個体である文には生起できない）、(iii.)述語の制限（瞬間動詞及び、完了を表す複合動詞+継続動詞とは共起することができない）という制限があると思われる。完全否定の陳述副詞の生起可能性は、対応する肯定文に程度の副詞「少し」等が共起出来るかどうかと関連があるかもしれない、上の制限に反する文の肯対応する定文は程度の副詞「少し」が共起できないという観察が見られる。

構造的な制限も完全否定の陳述副詞にはあり、完全否定の陳述副詞はその種類を問わず、否定辞ナイを伴った述語から離れば離れるほど容認性は低くなる。これは吉村(1999)で論じられる否定極性現象によって説明ができる。「否定極性項目は、否定辞ナイや「違う」のように否定の文を作る NPI 認可表現に c-command されなければならない」ここで論じられる否定極性項目とは否定文脈にのみ適切に現れることができる表現であり完全否定の陳述副詞もこれに当てはまる。よって完全否定の陳述副詞は否定辞によって c-command される位置にないといけないという構造的制限を持つ。また、従属節を含む文に生起するときには従属節の VP 内には主節の述語に関連付けられる完全否定の陳述副詞は生起することができない。これは完全否定の陳述副詞が直近の述語に関連付けられるという性質があるからである。つまり、副詞が従属節の VP 内にある場合は生起不可能であり VP 内にはない場合否定辞に近いほど容認性は上がる

以上のように本論では 2 章で今までに論じられてきた動作主及び動作の対象にかかる制限に加えて述語にかかる制限を取り上げて、完全否定の陳述副詞が持つ構成素の意味的制限を論じた。3 章で全否定の陳述副詞が持つ構造的制限を論じた。

## 参考文献

- 工藤真由美(1993)「否定と呼応する副詞をめぐって：実態調査から」『大阪大学文学部紀要』39: 69-107.
- 本田島治(1981)「日本語の否定構文(1)：「否定副詞」の分布をめぐって(前)」『静岡大学教養部研究報告 人文・社会科学篇』17(1): 左 170-149.
- 本田島治(1981)「日本語の否定構文(1)：「否定副詞」の分布をめぐって(2)」『静岡大学教養部研究報告 人文・社会科学篇』17(2): 234-212.
- 杉村泰(2001)「否定福祉ケッシテの意味分析」『言語文化論集』231: 71-86.
- 杉村泰(2002)「否定福祉ケッシテとカナラズシモの意味分析：全部否定と部分否定の間」『言語文化論集』23(2): 123-133.
- 玉城あゆみ(2010)「「終了」を表す複合的な動詞について」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』7: 1-15.
- 飛田良文・浅田秀子(1994)『現代副詞用法辞典』東京：東京出版.
- 吉村あき子(1999)『否定極性表現』東京：英宝社.

## 謝辞

本論文の執筆にあたり、ご指導・ご協力して下さった全ての方々に心より謝意を表します。まず、主査教官となっていた九州大学言語学・応用言語学研究室の上山あゆみ先生に深く感謝致します。先生には本論文に関して様々なアドバイスを頂くとともに、言語学研究の奥深さや面白さを教えていただきました。また副査教官となって頂いた同研究室の坂本務先生、久保智之先生、下地理則先生にも御礼申し上げます。先生方にはこの3年間で言語学について一からご教授頂き、本論文のテーマ発表会やメールのやり取り等において貴重な助言を頂きました。記して感謝致します。

九州大学大学院人文科学府言語学研究室の皆様にも、特に壱岐勝氏には本論文の構想から完成に至るまで、内容について懇切丁寧なご指導を頂くばかりでなく、折に触れて激励の言葉をいただきました。先輩方は本研究の問題点などについて、お忙しい中にも関わらずいつも御自分のことのように親身になって考えてくださいました。先輩方の多大なご協力無しには本論文を完成させることはできませんでした。皆様にどれほど助けられたかわかりません。心より御礼申し上げます。